

令和6年度 第1回 立川市史編さん委員会 会議録（要旨）

開催日時 令和6年8月2日（金） 午後3時00分～午後5時00分

開催場所 たましんR I S U R Uホール第2会議室

出席者 [委員] 大友一雄 小林尚子 ◎白井哲哉 杉浦早苗 鈴木功
豊泉喜一 ○檜崎茂彌 保坂一房

（◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略）

[事務局] 産業文化スポーツ部長 井上隆一、市史編さん室長 齋藤安則、
市史編さん係長 新藤博、鳥越多工摩、朝比奈新、武田真幸、
高野宏峰、渡邊皓太郎、鈴木啓太、山下祐香理

傍聴者 なし

あいさつ

室長着任のあいさつ、産業文化スポーツ部長あいさつ、前室長あいさつ、委員長あいさつ。
会議は原則公開とする。傍聴人なし。

<報告>

1. 新編立川市史本編（通史）について（資料1）

事務局より資料番号1に基づいて次のとおり説明があった。

『本編 通史』の体裁はB5判で縦書きの2段組み10.5ポイント、フルカラー印刷の上製本ということで決定し、すでに前回の編さん委員会議で報告済みである。資料1はこの体裁を反映させた実寸のテンプレートと、総説とコラムの体裁の参考として他市の自治体史の例を集めたものである。

編集委員会議では『本編 通史』の体裁に加え、上下巻で共通して検討すべき項目をいくつか取り上げた。時代の区切りごとに総説（時代区分の全体像を解説するまとめ）を記述すべきか、また、本文で記載しきれなかった資料や項目について補足するコラムを執筆するか議論した。

編集委員会議で出た結論としては、『本編 通史』下巻の範囲である近代と現代ではコラムを執筆しないことで同意を得た。一方で『本編 通史』上巻のみコラムを記載するという選択肢も今後検討を進めていく。

総説に関しては、概ね記述することに同意を得ているが、先に出る『本編 通史』下巻の執筆状況を見ながら検討していくこととした。仮に総説を記述すべきであると判断された場合、上巻についてもその判断に準ずることになる。

2. 市史編さん事業におけるデジタル化について（資料2）

事務局より資料番号2に基づいて説明があり、他の自治体史のデジタル化について現状を共有した。これに対し質疑を行い、意見を集約した。

【主な質問・意見】

・（意見・質問）刊行物をPDFデータで公開する場合、閲覧機能に目次をクリックして飛べるページ移動機能が付いているほうが読みやすい。また、外部サイト（A D E A C）や電子図書館などのシステム上でデジタルデータを公開した場合、データの出力やコピーを防ぐ機能を付けることができるのか。

- ・(意見)システム上でデータの出力やコピーを防ぐための機能はあるが、スクリーンショット機能を使用すれば実質コピーが可能になるなど、完全に防ぐ方法はない。
- ・(意見)画像データに関しては、公開するデータに低品質の処理を施すことで紙媒体と差別化が図れるのではないか。
- ・(意見)デジタルデータをインターネット上に公開するうえで権利者の許諾を得ることに一番のハードルがある。また、特に民俗関係の刊行物については、記載されている調査成果の内容に個人にかかわる情報が多く含まれるため特段の注意が必要になる。
- ・(意見)編集委員会でも、民俗関係の刊行物をデジタルデータで公開すべきかどうかは議論に上がった。
- ・(意見)刊行物に掲載されている資料で、全ての掲載許可が取れなかった場合、一部の公開になることで情報が部分的にしか伝わらないことへの懸念を感じている。また、ページ移動機能など、読みやすい機能が付いていると子どもにとっても良い環境になるのではないか。
- ・(意見)民俗関係資料は調査成果に個人情報が含まれることは多々ある。内容によっては部分的に非公開とすることも選択肢として考えなくてはならない。一方で、時間の経過により歴史資料として捉えられるようになった場合は公開してもよいのではと考えている。
- ・(意見)『本編 通史』や『別編 テーマ編』は教育の現場で特に活用されるべき刊行物であるので、調査成果へのアクセスのしやすさを重視し、デジタル化を前提として掲載許可を取り、インターネット上への公開のための準備を進めるのがよいのではないか。
- ・(意見)動画の公開・活用を積極的に進めるべきである。
- ・(意見)デジタルデータの流通が一般化している現在の状況と、紙媒体で流通可能な数を踏まえ、普及のしやすさからみてもデジタルデータ化を先に進めるべきではないか。
- ・(意見)『本編 通史』や『別編 普及版』など、市民向けに作成する刊行物は、普及のしやすさを優先してデジタルデータ化を進めてもよいかもしれない。
一方で調査報告書は専門性の高い内容なので、紙媒体の頒布を進めるべきかと考えている。
- ・(意見)『資料編 地図・絵図』のように画像主体の刊行物はデジタルデータを閲覧するほうが使い勝手がよい場合もある。デジタルデータを公開することで、資料をより活用できる環境が整うのではないか。

3. 専門部会活動報告及び活動予定について（資料3）

事務局より資料番号3に基づき説明した。

【主な質問】

- ・(質問)砂川家文書に関して、何らかの報告書を刊行する予定はないか。
- (回答)砂川家文書は点数が膨大ということもあり、報告書を作成するか検討できる段階にまだ至っていない。

現時点では刊行計画にある刊行物に掲載する資料の選定を優先的に進めている。資料の選定を経て全体像を把握したうえで、報告書を刊行するかどうかの議論が可能となると考えている。

- ・(質問・意見)砂川家文書調査で新たに発見された大幟について、幟に書かれている詩の内

容に関する調査の進捗状況を知りたい。また、大槻が新たに見つかったことを市民の皆さんに向けて告知することで、新たな資料の発見にもつなげてほしい。

→(回答)詩の内容については専門家の意見が必要な領域であり、今後解説に向けた準備を進めていく予定である。告知の時期・形態についてはまだ検討段階である。

・(意見)市の方針の確認も含め、今後の文書保存の体制についても検討してほしい。

・(意見)今後立川市の文書法政課との協議を検討してほしい。

4. 新編立川市史頒布状況（有償分）について（資料4）

事務局より資料番号4に基づいて説明した。

5. 市史編さん広報紙「たちかわ物語」計画表について（資料5）

6. 市史編さん関連講演会について（資料6）

事務局より資料番号5および6に基づいて説明した。

【主な質問・意見】

・(意見)最後の3年の講演会は、市史編さん事業の成果や、市史編さん事業以降の保存・活用に向けた内容を、編さん委員や外部の講師を招いて、今後に資する話をしたらどうか。

・(意見)講演会講師はこれまで編さんに携わる専門家が務めてきているので、自治体史の活用に関する事例のある行政側を呼ぶのはどうか。

・(意見)そういった内容なら、最終年でなく、早めにやって事業に生かした方がよい。

・(意見)行政側の視点だけでなく、民間アーカイブズの視点も取り入れるべきである。

・(意見)大学も加えて、行政・民間・大学と、様々なポジションの人にそれぞれの視点から地域資料の保存と活用を議論できればよい。

→(回答)講演会に至らない部分を『たちかわ物語』紙上に掲載することも考えられる。ここまでの議論を踏まえ、最後の3年間は、市史編さん以後に向けた広報紙・講演会にしたい。

7. 令和6年度市史編さん関連展示（写真展）について（資料7）

事務局より資料番号7に基づき今年度の展示計画について説明した。

【主な質問・意見】

・(要望)告知はLINEでもしてほしい。

→(回答)そのようにすすめる。

8. 砂川家の資料調査について

砂川家調査について、事務局より次のとおり口頭で説明した。

砂川家の蔵の調査は継続的に進めている。砂川家の調査の成果を報告することで、他家の調査に繋がる波及効果を期待している。調査の状況は、事業期間内に全体の総点数を把握するのが目標という状態である。

【主な意見】

・(意見)砂川家の文書は膨大な規模であるため、その片鱗を用いて砂川地区の歴史の一端に迫る、ということで近世部会は努力している。そのなかで公的に発信できるものがあれば、可能などころで発信もしていくよう、近世部会では検討してほしい。

<その他>

- (要望)資料調査と同様、聞き取り調査やその調査風景を動画で記録することも重要である。また、市史編さん事業で収集した資料を民間でも活用できるような基準を整備してほしい。
- (要望)立川の歴史を通じたキャッチフレーズのようなものを考えてほしい。
- (要望)市史編さん事業の成果について、特に若い世代に向けてもっと PR してほしい。

<終了 午後5時 00分>